

(2) 成田国際空港の整備

成田国際空港は、現時点でほぼその処理能力の限界に達していますが、39ヶ国から新たに乗り入れ希望があるほか、既に乗り入れている39ヶ国2地域の航空会社からも強い増便要求を受けています。このような状況の中、使用機材の制限等がある暫定平行滑走路(2,180m)の2,500m化は、内外の増大する国際航空需要に対する容量不足の解消を図るための喫緊の課題であることから、北伸による平行滑走路の2,500m化を推進します。

<事業の概要>

平成18年度は、管制卓、管制情報処理装置等の更新整備等に努めるほか、北伸による平行滑走路の2,500m化に対応するため、管制設備等の設計を実施します。

国直轄事業 8 (37) 億円 ※ () 内は前年度予算

<参考>

○ 会社事業 (約700億円)

平成18年度は、北伸による平行滑走路の2,500m化を推進するほか、旅客ターミナルビルの改修や、物流施設の機能向上、環境対策・共生策等を実施していきます。

また、都心と空港を30分台で結ぶ成田高速鉄道アクセスの整備(空港駅)を引き続き推進します。

※会社事業費は、全て会社の自己財源で対応。

なお、会社事業費及び事業内容は現在の見込みであり、会社事業計画の認可時点でさらに精査する予定。

北伸による成田空港平行滑走路の整備について

現状

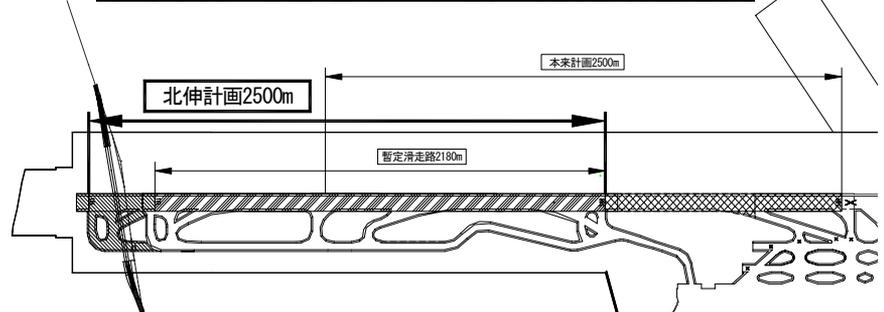
残る選択肢

北伸による2,500m化

○本来計画のための用地取得の見通しが立たない。

○首都圏の国際航空需要は逼迫。世界各国のエアラインより、新規乗入れ、増便を強く希望されるも、これらに応えられない状況。

○未買収地を避けて北側に滑走路を延長



○平行滑走路2,500m化の効果

	暫定平行滑走路(2,180m)	2,500m平行滑走路
ジャンボ機等 (B747-400等) の利用	利用不可	利用可能
離陸機の目的地	東南アジア周辺止まり	米国西海岸まで就航可能



【暫定平行滑走路】